

2-4 認知症介護指導者としてのその他の活動

認知症介護指導者会を立ち上げ、 組織的に指導者の活動を展開(沖縄県)

【活動の概要】沖縄県認知症介護指導者会を組織し、県内の認知症介護に関する活動を会として受託。講演会だけでなく、新聞の連載や、ラジオのゲスト、行政における認知症施策の委員会委員等、指導者が協働・連携して活動を展開している。

取組みのきっかけ・ 背景

●認知症介護指導者研修は、県の予算で受講した者であり、単に実践研修を実施するだけでなく、指導者施設の底上げや地域住民の理解を深める活動をして、**地域に成果を還元したい**という思いで、平成19年に指導者の総意で発足した。



取組みの発展と成果

<活動内容>

●地域の実践者向けの講演会からスタート。これまでに、加藤伸司氏、長谷川和夫氏、ユマニチュードのイブ・ジネスト氏など、最先端の研究者・実践者の講演をこれまでに6回(毎年)開催。

●さまざまな**活動を認知症介護指導者会として引き受け**、指導者で分担して、担当する

例)キャラバンメイト養成講座、サポーター養成、認知症ケアの研修の講師依頼、新聞(沖縄タイムス、住宅新聞等)での連載、ラジオのゲスト、沖縄県認知症施策会議委員(H18年～)、沖縄認知症ケアネットワーク研究会世話人(H22年～)、(公社)認知症の人と家族の会沖縄県支部世話人(3名)など

●実践研修の修了後の活動状況の調査を県と共同で実施。

(最近の活動)サポート医、指導者がいる地区の行政と連携し、勉強会をスタート。



- 指導者同士の連携、ネットワークが深まった。
- 県とのネットワークが深まった。
- 指導者会に対する依頼が増えた。
- 公民館や自治会の役員が「認知症介護指導者」を知り、**この人が指導者だと認識し、直接講師依頼や相談をされること**が増えた。